

◇演題：情報通信の現状と今後の動向

～農業分野でICTを利用した具体的事例の紹介～

◇講師：五雲寺 卓 (Gounji Takashi)

(株)富士通テレコムネットワークスエンジニアリングサービス

(米沢興譲館 昭和43年卒)

PROFILE

- 1949年 山形県長井市に生まれる
- 1968年 山形県立米沢興譲館高等学校卒業
- 1974年 山形大学大学院工学研究科電子工学専攻 修士課程修了。
同年、富士通株式会社入社
- 1996年 富士通株式会社 伝送事業部 技術部長
- 2001年 富士通株式会社 NTT第一統括営業部 統括部長
- 2007年 富士通アクセス株式会社 執行役員
- 2011年 株式会社富士通テレコムネットワークスエンジニアリングサービス代表取締役社長
- 2014年 同社顧問、エグゼクティブアドバイザー



- 41年間にわたり富士通株式会社および関係会社において、通信ビジネス関連の業務に従事。

講演概要

情報通信技術（ICT）は、社会のインフラとして我々の暮らしの中で必要不可欠なものになっている。インターネット人口は世界で約30億人に達し、今後も増加していくことが予測される。

また最近では4K、8Kのより高精細な放送も実用化され始め、一方ビッグデータを用いた精度の高いサービスを瞬時に提供できる技術も実現している。

上記の社会的要請を支えるICTは日々進歩し、特に通信速度の高速化やコンピュータのデータ処理速度の飛躍的向上が実現の鍵となっている。さらに経済的で高度なサービスを楽しむクラウドサービスがデータセンターを介し、様々な分野で当たり前になる状況になってきている。

講演ではICTの市場や技術の動向を説明すると共に、今まで縁が浅いと思われていた農業への活用（人工透析患者でも生で食べられる低カリウムレタスの工場での栽培や農業クラウドを用いた農業経営の効率化）について具体的な事例をあげて紹介する。

米沢市 米沢法人会セミナー 富士通の五雲寺氏が情報通信技術の現状と動向を講演

2015/01/17 山形新聞朝刊 16ページ 431文字

米沢法人会青年部会・女性部会共催の新春セミナーが14日、米沢市の伝国の杜で開かれ、富士通テレコムネットワークスエンジニアリングサービスの五雲寺卓エグゼクティブアドバイザーが「情報通信の現状と今後の動向」と題して講演した。

五雲寺さんは、コンピューターやネットワークに関する技術・産業・設備・サービスなどの情報通信技術（ICT）全般について説明。「導入コストが安価なので、農業や医療、金融、教育などの各分野でICTの利用が広がっている」と述べた。

農業分野でICTを利用した例として、人工透析患者でも生で食べられる低カリウムレタスの生産工場を紹介。スマートフォンやタブレットで工場内の温度や湿度、二酸化炭素濃度などを管理して最適な生育環境を保つ仕組みを構築しており、「農家の経験則に頼らず、野菜を安全に安定的に生産できる」と話した。

講演内容が山形新聞に掲載されました。
米沢法人会主催、新春セミナーでの